

世界一長寿の国デンマーク

戸倉ハル

今年七月十五日から一週間、ロンドンにおいて世界女子体育会議があり、それに出席するために、六月二十一日午前十時、北極まわりの飛行機でたちました。

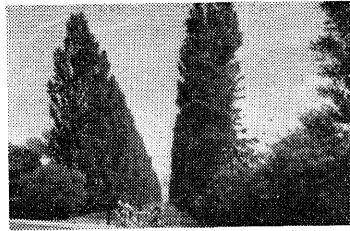
北極ははじめてのこととて非常な期待をもっていきました。飛行機は北海道を横に見てぐんぐん北に進んでいきます。十時間たって日がくれません。うとうととまどろんでいると、「グッドモーニング」といわれ、おめざめのジュースとコーヒーが運ばれてきました。土地時間の午前四時、給油のためにアラスカのアンカレッジにおりました。風は肌をつんざく寒さでしたが、珍らしくこごえたような立藤の花が咲いていたのは驚きました。あたりには大きな立木がちっともなく、わずかに灌木があるだけです。四十分の後、再び機上の人となって、これから北極圏に入るわけです。

空は茜色に染まり、やがて右の空に朝日があかあかと昇って、左手に有明の月がぼんやり残っておりました。考えてみれば、北極でも白夜といって、とつぶり日が暮れないほどですから、北極では当然のことなのです。月と太陽とを同時に見て、これが現実

の私だろうかと思ったり、おとぎの私ではないかと思ったりしました。まったく、不思議な光景の中になお不思議に思いました。下を見おろすと、淡青い平原が白銅色の平地に連なり、それがしだいに白雪を帯びてゆきます。北極のただ中を通っている私は、下には白熊がいるかと思つて凝視をしましたが、三千五、六百呎の高さとして見えようはすもありません。ただ山々が、テントを張りつめたように雪に埋れてしずまりかえておりました。ところどころに黒い糸をひいたように見えたのは、氷の割れ目ではないかと思われます。やがて青い海の中に巉巉たる島山が見え始めました。それはスカンディナヴィア半島でした。羽田以来、実に三十時間を費しておりますが、墜ちると露と消えることとて緊張して乗っていたので、腰の痛さも覚えませんでした。そのままコペンハーゲンの地上の人となって大きく伸びをしました。

ここデンマークは、東京の三月頃の気候で、みんなオーヴァーヤスウェーターを着ておりましたが、私どもは真夏の日本から真夏のロンドンに行くとして、すべて夏仕度で出発いたしましたのでぶるぶるふるえました。それでできるだけ下着を重ねて、その上

に、ロンドンのために用意した長袖の礼服を着用しなければなりません。この町は一面緑に覆われ、この寒さにめげずに薔薇の花が満開であったことが、また思いがけない風景の一つでした。



緑の街コペンハーゲン

こちらからの紹介によって、ステイーマンさんという七十歳の婦人が案内してくださいました。まず、コペンハーゲンの駅の食堂で昼の食事をしましたところ、私どもは旅の疲れか定食がやつとのことでしたが、ステイーマンさんは別に三品も注文し、およそ私どもの三倍の量をたいらげたと思われる健淡さに驚きました。何とこのかたは源氏物語の研究で翻訳もなさり、漢字を三千字知っているから、書物は何でも読めるといばっていました。話しことばはてにをはがぬけたりアクセントがおかしかったりでお愛嬌でした。

ちょうど夏至の日で、この国の大学の卒業の日の面白い風習に出遭いました。それは、今年卒業した男女の学生が、今日の日が学生生活の最後の日というので、車に乗って、メガフォンを使って大声で歌ったり、少し広い通りにきてはおりてダンスをしたり、できるだけの馬鹿騒ぎをしますが、一般大衆が喜んで学生最後の馬鹿騒ぎを見ているのです。「踊る阿呆に見る阿呆」という歌があります。まったくその文句通りの風景で、私は踊りませんでしたので、損をしたような気がします。

こんなに寒いのに、学校はすでに夏休みになっているのがおかしく感じられました。学生たちは海山に遊び、子どもたちが父兄にとまなわれて、山のしたく、海のしたくでかける姿をところどころで見かけるほかは、子どもの姿を見ることができませんでした。



農家

ここは農業の国なので、農村の発達は世界一といわれております。わらぶき屋根がところどころにあるのが目について、日本の光景に似かよっていることを嬉しく思いました。山のちっともない農村を通ってみますと、ただひろびろと畑にいて、麦が豊かにみのつており、まましたが、ところどころに針金のような麦が十粒ほどの麦をみのらせ、ポピーの花などをその中に咲かせているのを見て、どんなに無精な百姓が作ったのだらうかと思つたことでした。あとで聞いてみると、作り切れないので手の入れようが限りでした。

片田舎のオーレラップには、有名なニールスブックの学校があります。汽車やバス、それに船に乗ったりしていくこととて、途中で原野の広大なことをつぶさに見ることができました。私は、先年この学校へいくためにコペンハーゲンの駅の果物屋で買物をして、ハンドバッグを店先に置いたまま汽車に乗りました。乗っ

てから忘れたことに気がついて、驚いてその店に帰ってみると、時間は三十分を経過していましたのに、私の置いたところにそのままありました。その後泊ったブツクの学校の私の部屋には鍵がないので不安に思ってお聞きすると、学校中一つも鍵をかけないとのことで、一段と羨しさを感じました。バスの切符を売る窓口には、遠のりのこととて三十名位の列の後尾に並んでいました。が、一人ずつ静かに買っては静かに行き、日本のようにひしめき合わない整然さに魅了されました。この一事でもおわかりのように、デンマークの人々はゆっくりとして、ゆたかで、のんびりしています。何と女中さんでも一月一万六、七千円の俸給をもらうそうです。

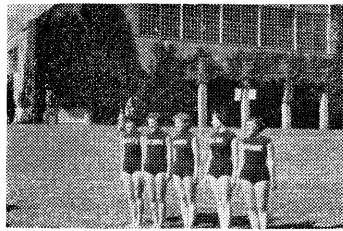


コペンハーゲンの街

町には信号がなく、自動車は人先に通して、あとから通っていきませんが、やはり東京のように信号による方が安心して通れるような気がしました。

先年わが国にもこられたニールスブツクの学校は、主として社会体育に貢献しております。一年に千二百人の男女の学生を世に送り、そのほか長きは一年から、半年、三か月の体育の講会をしております。ちょうど私どもがまいりましたときは三か月の男女の講習会がありました。私は、一晩この学校に泊って学生と起居をともしました。七時起床、七時半朝食に続いて、その日は次のような日課によって、かなり充実した授業がありました。

- | | |
|------------------|---------|
| 八時—九時 | 文学 |
| 九時—十時 | 教授法 |
| 十時—十一時 | 生理、解剖 |
| この間に水泳をする人もあります。 | |
| 一 時—二 時 | はたおり、手芸 |
| 二 時—三 時 | 国語 |
| 三 時—六 時 | 体操 |



ブツクの学校の学生

こうして養われるかたちは、各町村から送られてきておりますので、帰っていきけばそれぞれ地域のリーダーとなるわけです。各町村には体育設備が整っており、みんなが体育すべきだという観念が植えつけられており、適当な時間をさいて体育することが常識となっているということです。農村の体育は、夜八時から九時頃までにおこなわれます。富んだ村では大きなグラウンドを持つものもあり、主として、水泳、自転車、キャンプ、中跳、三段跳、徒歩、円盤投、やり投、体操がおこなわれ、若い人は、この中から三種目を選択して体力検定をおこない、それぞれに金、銀、銅のメダルが与えられます。夏は、多くの人が自転車旅行を楽しんでいることとす。この国の平均寿命は六十七・七歳で世界最高を誇っています。ステイマンさんの健康健啖を思いあわせて楽しんでました。